平等に医療と教育を受けるために

今治市立北郷中学校３年　　越智　直太朗

僕の母子手帳には、出生時に早産児、新生児仮死と書かれている。お腹から出たら「オギャー。」と泣くはずが、声を上げず、看護師さんが慌てた様子で、別室へ運んで行ったという。その後、適切な処置が行われたおかげで呼吸をするようになったが、一ヶ月近く、ＮＩＣＵ（新生児集中治療室）に入院することとなった。そこには、赤ちゃんの呼吸や心拍、体温を管理するための特別な機械や設備が整っており、先生や看護師さんが二十四時間体制で、治療やお世話をしてくれたと聞いた。早産で生まれた僕は、呼吸中枢が未熟なため、時々呼吸が止まることがあったからだ。呼吸が止まると、機械が警告音で知らせるため、すぐに対応してもらうことができた。おかげで、僕は今、元気に生活できている。しかし、そんな設備の整った場所に、一ヶ月も入院していたならば、金銭的に大きな負担になったのではないかと思う。だが、日本では、乳幼児医療費助成制度や、その他の公的制度を利用すれば、医療費は、ほぼ発生しないと聞いた。僕は、なんだかホッとした。

日本では、生まれた赤ちゃんのうち、四パーセント（二十五人に一人の割合）が、ＮＩＣＵに入ると言われている。もし、医療費を全額負担しなければなららかったら、高額な費用を払えない家庭も出てくるだろう。そうなったら、生まれた命をどうするかという究極の選択を迫られることになるかもしれない。そんなことが起こらないようにするためには、助成制度を守る必要がある。そして、制度を守るためには、皆がきちんと税金を納めることが大事になってくる。

税金は、僕が通う学校でも、あらゆる所で使われている。校舎の建築費、教室の備品、教科書やタブレット。一昨年から設置されたエアコンもその一つだ。エアコンがついたことによって、酷暑でも、快適に学習に取り組むことができるようになった。塾に行けば授業料がかかるが、小・中学校は、皆が無償で授業を受けることができる。こんなふうに、僕たち子どもに税金が使われる理由は、しっかりと勉強ができる環境をつくり、教養を身に付け、文化を育みながら、日本の未来を担っていってほしいという思いからだろう。

今の僕が、社会に対して出来ることは少ない。しかし、病院で助けられ、学校という安心して勉学に励める場所があることに感謝し、一生懸命勉強し、将来、少しでも社会の役に立てる人間になれるよう、努力することはできる。

日本には様々な税がある。そして、僕たちの命や生活を支えてくれている。そこには、多くの納税者の力がある。次は、自分たちの番だと思う。この先もずっと、みんなが平等に、教育や医療が受けられるように、僕は、将来就職して、納税という形で恩返しをしていきたいと思う。それが、僕のような子供たちの未来を守ることにつながると信じて。